

株主のみなさまへ

グループ事業のご報告

第121期上半期決算 2011.4.1~2011.9.30

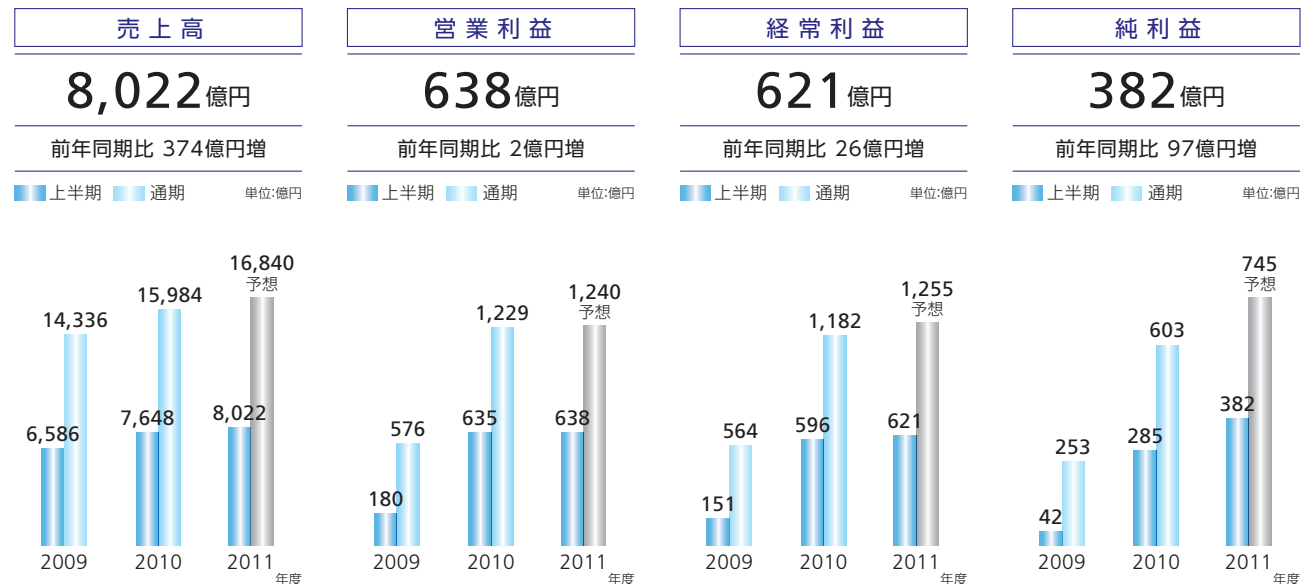
証券コード：3407



前年同期比、増収、増益。 営業利益、純利益は過去最高を更新。

当社グループの当上半期（2011年4月～9月）における連結業績は、住宅事業が戸建住宅「ヘーベルハウス™」などの引渡戸数が増加したことにより業績を伸ばしたことや、ケミカル事業が堅調に推移したことなどから、売上高は8,022億円で前年同上半期比374億円増（4.9%）の増収となり、営業利益は

638億円で前年同期比2億円（0.4%）の増益となりました。また、経常利益は621億円で前年同期比26億円（4.3%）の増益となり、純利益は382億円で前年同期比97億円（34.3%）の増益となりました。



代表取締役会長 伊藤 一郎
代表取締役社長 藤子 建嗣

ごあいさつ

“株主のみなさまへ”をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当上半期における世界経済は、中国をはじめとする新興国の成長が堅調に推移したものの、米国経済の減速と欧州の財政危機による金融不安などにより、先進国の景気の先行きは不透明感が強まりました。また、日本経済は、東日本大震災で一時的に落ち込んだ生産活動に持ち直しの動きが見られたものの、円高の進行や新興国の金融引き締めによる輸出環境の悪化懸念などもあり、先行き不安な状況にあります。

このような状況の中で、当上半期における当社グループの連結業績は、住宅事業が戸建住宅「ヘーベルハウス™」などの引渡戸数が増加したことにより業績を伸ばしたことや、ケミカル事業が堅調に推移したことなどから、増収・増益となりました。この結果、上半期末の配当金を、当初の予想より1円増配の7円とさせていただきます。

当社グループでは、2011年度より、2015年度を最終年度とする中期経営計画「For Tomorrow 2015」をスタートいたしました。「For Tomorrow 2015」では、グローバルで競争優位にある事業を積極的に展開することに加え、グループビジョンとして定めた「健康で快適な生活」「環境との共生」の実現に向け、「環境・エネルギー」「住・くらし」「医療」関連分野での拡大を進めています。これからの社会のニーズを先取りして企業価値の向上を図るために、グループ一体となった経営を推進し、「グローバルリーディング事業の展開」と「新しい社会価値の創出」でさらなる成長の追求をしてまいります。

なお、本年3月に発生いたしました東日本大震災において当社グループでは、宮城県、茨城県の工場等で被災をいたしました。いずれも5月には復旧いたしました。一方、本年10月に発生いたしましたタイにおける洪水被害では、旭化成ケミカルズに関連工場が被災し、10月末現在では生産再開には時間を要する見込みです。被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

株主のみなさまにおかれましては、従来と変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

旭化成グループ基本理念

私たち旭化成グループは、
世界の人びとの「いのち」と「くらし」に貢献します。

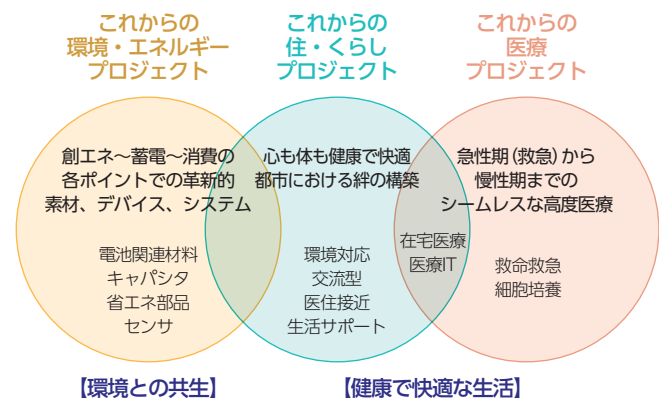
2011年11月

※当社ホームページで株主・投資家のみなさま向けに社長メッセージ動画を配信しています。ぜひご覧ください。
【株主・投資家情報】 <http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/ir/index.html>

当社は、2011年4月よりスタートさせた中期経営計画「For Tomorrow 2015」において、これからの社会ニーズとして「健康で快適な生活」「環境との共生」をグループのビジョンと決めました。これらの実現に向け、「環境・エネルギー」「住・暮らし」「医療」の3つの関連分野に重点的に資源配分し、事業拡大を進めております。さらに、多様な事業を手掛ける当社グループの強みを活かして、これらの分野でグループ統合的に新事業創出を行うために「これからの環境・エネルギープロジェクト」「これからの住・暮らしプロジェクト」および「これからの医療プロジェクト」の3つの「これからプロジェクト」を設置しました。それぞれのプロジェクトでは、新しい社会価値を提供するシステム型・融合型の新事業の創出を、グループ一体となって推進していきます。

今回、それぞれのプロジェクトの責任者に、プロジェクトの概要、取り組み、展望を聞きました。▶▶▶

グループ融合プロジェクト体制




**これからの
環境・エネルギー
プロジェクト**

旭化成 常務執行役員
稲田 勉

これからの環境・エネルギープロジェクトでは、3つの開発センターと1つの事業化プロジェクトをスタートさせました。

- 先端電池材料開発センター
(進化型リチウムイオン二次電池材料、次世代蓄電材など)
- 次世代部品開発センター
(化合物半導体をベースとした省エネセンサ、パワーデバイスなど)
- 先端エネルギー材料開発センター
(太陽電池・LED関連材料など)
- LICプロジェクト
(高性能リチウムイオンキャパシタの事業化)

これまで事業会社に分散していたテーマや人材を一つの責任体制に集約し、当社グループの経営資源を融合させる研究開発体制がとれることで、よりスピーディーな新規事業の創出を図ることができます。

環境を守りつつ、限りあるエネルギー資源を有効活用してゆくことは、人類が未来を切り開いてゆくために不可欠です。いずれも世界中が注目し競争の激しい分野ですが、当社グループの技術と英知とネットワークをフルに活用し、当社独自の特長ある事業に仕上げていきたいと思っております。

事業化したプロジェクト

環境・エネルギープロジェクト

- 2011年10月、FDK株式会社とリチウムイオンキャパシタの合併会社「旭化成FDKエナジーデバイス株式会社」を設立しました。FDKのセル・モジュール技術および製造技術と旭化成独自のセル基本技術を融合し、製品開発力と供給力の一層の強化を図ります。



**これからの
住・暮らし
プロジェクト**

旭化成ホームズ 社長
平居 正仁

これからの住・暮らしプロジェクトでは、旭化成ホームズ内に「新規事業推進本部」を設置し、新規事業推進本部では「住宅設備事業」「新規リフォーム事業」「新規都市開発事業」「中古住宅事業」「生活サポート事業」「内製化事業」「海外事業」の7つの事業推進プロジェクトをスタートさせました。この中から10年後、20年後の当社グループが活躍できる事業を生み出していきます。

現在、富士支社内に「HH2015」という実証棟の建設計画を進めています。これは「2015年に華開く (Hana Hiraku)」という思いを込めて名づけたもので、3つのこれからプロジェクトの各領域におけるさまざまな新技術などを搭載し、実証試験を行います。

世界の人のびとの「いのち」と「くらし」に貢献する、当社グループの提供する新たな社会的価値が華を開く場の一つに「住宅」があります。実際の建物において旭化成グループの持つさまざまな新技術の実用性を検証し、事業化につなげていきます。

医療プロジェクト

- 米国ゾール・メディカル社と、同社のAED(自動体外式除細動器)である「ZOLL AED Plus」の国内独占的販売に関する契約を締結し、2011年8月より販売を開始しました。「ZOLL AED Plus」は、日本初のCPR(心肺蘇生法)フィードバック機能付きAEDであり、本製品の普及に尽力することにより、救急救命率の向上に貢献します。



**これからの
医療
プロジェクト**

旭化成 専務執行役員
吉田 安幸

これからの医療プロジェクトでは、3つの領域でプロジェクトをスタートさせました。

- 救命救急医療チーム
(救命救急分野での人命救助)
- 医療ITチーム
(日常生活から医療・介護までの個人健康データをシームレスに連結)
- 細胞・再生医療チーム
(最先端医療技術の実用化)

これからの医療プロジェクトでは、旭化成ファーマ、旭化成クラレメディカル、旭化成メディカルの3つの事業会社と三位一体となり、「日本発の医療技術の発展・普及」と「健康長寿モデル社会作り」を目指します。

海外や国内企業とのスピード感あるアライアンス戦略が不可欠なため、当社グループ資源の「内なる融合」に競争優位性を求めるだけでなく、産学連携・医工連携による「外との融合」に積極的に取り組みます。

- 2011年9月、テラ株式会社とがん治療を目的とした細胞プロセッシング装置の共同研究開発に関する契約を締結しました。テラ株式会社が研究開発を行う「樹状細胞ワクチン療法」などの免疫細胞の培養プロセスに、当社が医療事業で培ってきた知見、細胞プロセッシング技術を応用し、がん治療における、高品質な細胞を安定的、効率的に培養する細胞プロセッシング装置の実用化を目指します。



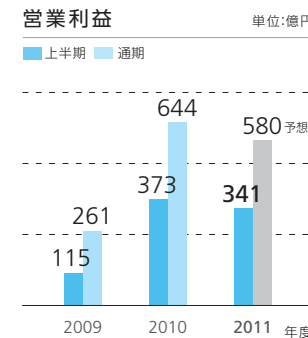
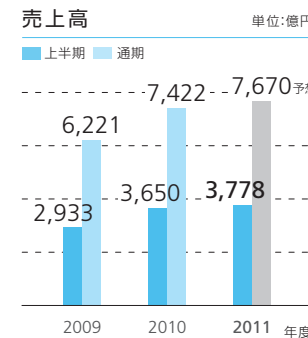
旭化成株式会社
旭化成グループ事業会社

旭化成ケミカルズ株式会社	
	<p>〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング Tel. 03-3296-3200 社長 坂本 正樹 資本金 30億円</p>
〈主な営業品目〉	
ケミカル セグメント	石化・モノマー系(アンモニア、硝酸、カ性ソーダ、アクリロニトリル、スチレンモノマー、アジピン酸、MMAモノマー、アクリル樹脂など)、ポリマー系(スチレン系樹脂「スタイラック™-AS」・「スタイラック™-ABS」、ポリアセタール樹脂「テナック™」、変性PPE樹脂「ザイロン™」、ナイロン66樹脂「レオナ™」、ポリエチレン「サンテック™」、合成ゴム、ポリスチレンなど)、高付加価値系(塗料原料、ラテックス、医薬・食品用添加剤「セオラス™」、火薬類、金属加工品、中空糸ろ過膜「マイクロザ™-UF」・「マイクロザ™-MF」、イオン交換膜法電解装置、「サララップ™」、シップロック™)、各種フィルム・シート、発泡体など
旭化成ホームズ株式会社	
	<p>〒160-8345 東京都新宿区西新宿一丁目24番1号 エステック情報ビル Tel. 03-3344-7111 社長 平居 正仁 資本金 32億5千万円</p>
住宅 セグメント	
「ヘーベルハウス™」、「ヘーベルメゾン™」、マンション事業、都市開発事業、リフォーム事業、不動産流通事業、住宅ローン事業など	
旭化成ファーマ株式会社	
	<p>〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング Tel. 03-3296-3600 社長 浅野 敏雄 資本金 30億円</p>
医薬・医療 セグメント	
医療用医薬品(「リコモジュリン™」、「エルシトニン™」、「フリバス™」、「トレドミン™」、「プレディニン™」など)、診断薬「ルシカ™ GA-L」、流動食「リシリーズ」など	
旭化成クラレメディカル株式会社 旭化成メディカル株式会社	
	<p>〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング Tel. 03-3296-3750 社長 柴田 豊 資本金 旭化成クラレメディカル 8億円 旭化成メディカル 2億円</p>
医薬・医療 セグメント	
旭化成クラレメディカル株式会社 旭化成メディカル株式会社	
ポリスルホン膜人工腎臓「APS™」、アフエシス(血液浄化療法)関連機器など	
ウイルス除去フィルター「プラノバ™」、白血球除去フィルター「セパセル™」など	
旭化成せいり株式会社	
	<p>〒530-8205 大阪府大阪市北区中之島三丁目3番23号 中之島ダイビル Tel. 06-7636-3500 社長 高井 秀文 資本金 30億円</p>
繊維 セグメント	
ポリウレタン弾性繊維「ロイカ™」、再生セルロース繊維「ベンベルグ™」、スパンボンド「エルタス™」・人工皮革「ラムース™」などの不織布、ナイロン66繊維「レオナ™」など	
旭化成エレクトロニクス株式会社	
	<p>〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング Tel. 03-3296-3911 社長 小堀 秀毅 資本金 30億円</p>
エレクトロニクス セグメント	
ミクスドシグナルLSI、ホール素子など	
旭化成イーテリアルズ株式会社	
	<p>〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング Tel. 03-3296-3939 社長 鴻巣 誠 資本金 30億円</p>
エレクトロニクス セグメント	
リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイボア™」、フォトマスク防塵保護膜ペリクル、感光性樹脂・製版システム「APR™」、感光性ポリイミド樹脂「バイメタル™」、感光性ドライフィルムレジスト「サンフォート™」、プリント基板用ガラスクロスなど	
旭化成建材株式会社	
	<p>〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目105番地 神保町三井ビルディング Tel. 03-3296-3500 社長 小林 宏史 資本金 30億円</p>
建材 セグメント	
軽量気泡コンクリート「ヘーベル™」、フェノールフォーム断熱材「ネオマ™フォーム」、パイル、鉄骨構造用資材など	



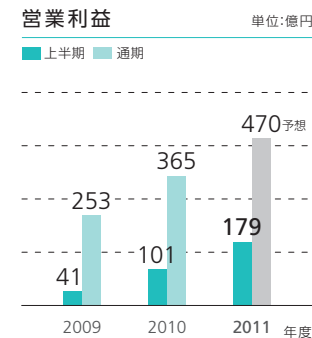
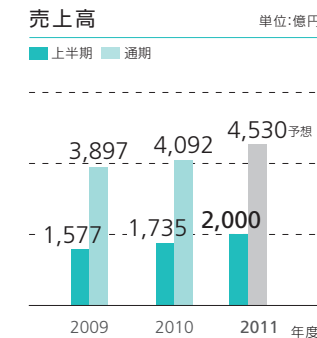
売上高は3,778億円で、前年同期比128億円(3.5%)の増収となりましたが、営業利益は341億円で、前年同期比32億円(8.6%)の減益となりました。

石化・モノマー系事業では、期前半に好調だったアクリロニトリルなどのモノマーの取引条件が期後半に悪化しました。また、ポリマー系事業では、タイヤ向け合成ゴムなどが好調に推移したものの、エンジニアリング樹脂は国内自動車生産台数減少により販売量が減少し、原燃料価格高騰の影響も受けました。高付加価値系事業では、「サララップ™」などの消費材やイオン交換膜などが堅調に推移しました。以上により、セグメント全体では増収・減益となりました。



売上高は2,000億円で、前年同期比264億円(15.2%)の増収となり、営業利益は179億円で、前年同期比78億円(77.3%)の増益となりました。なお、建築請負事業の受注高は1,894億円で、前年同期比77億円(4.2%)の増加となりました。

建築請負事業では、戸建住宅「ヘーベルハウス™」や集合住宅「ヘーベルメゾン™」の引渡戸数が増加しました。また、分譲事業では、分譲マンションの売上が増加したことや、住宅周辺事業も好調に推移したことなどから、セグメント全体では増収・増益となりました。

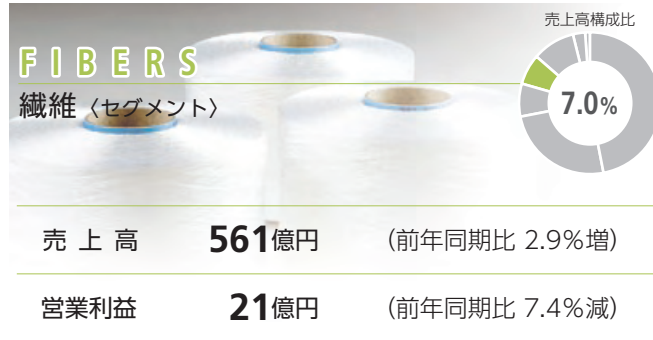
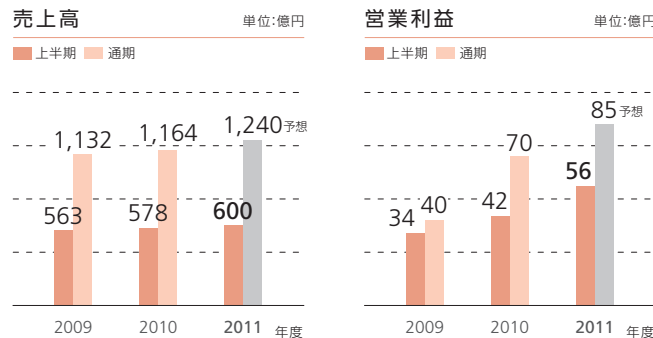


事業活動の状況をお知らせします。



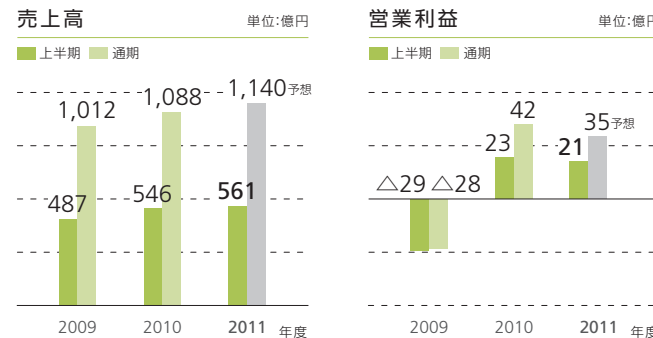
売上高は600億円で、前年同期比22億円(3.8%)の増収となり、営業利益は56億円で、前年同期比14億円(34.1%)の増益となりました。

医薬事業では、MR(医薬情報担当者)の増強などにより販売管理費が増加したものの、血液凝固阻止剤「リコモジュリン™」などの販売量が大幅に増加しました。また、医療事業では、各製品が円高や販売価格の下落の影響を受けたものの、ウイルス除去フィルター「プラノバ™」などの販売量が大幅に増加しました。以上により、セグメント全体では増収・増益となりました。



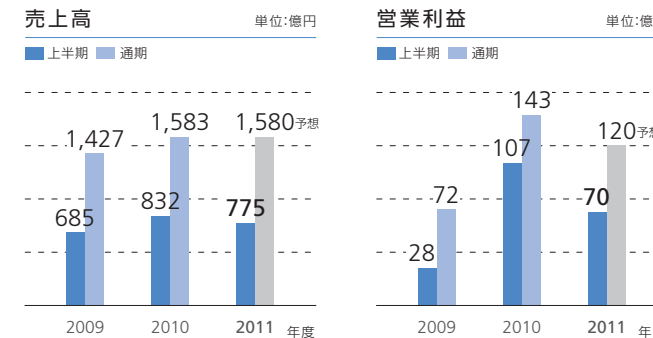
売上高は561億円で、前年同期比16億円(2.9%)の増収となりましたが、営業利益は21億円で、前年同期比2億円(7.4%)の減益となりました。

ナイロン66繊維「レオナ™」のタイヤコード用途や再生セルロース繊維「ベンベルグ™」の裏地用途などの販売が好調に推移したものの、各製品で原燃料価格高騰や円高の影響を受け、セグメント全体では増収・減益となりました。



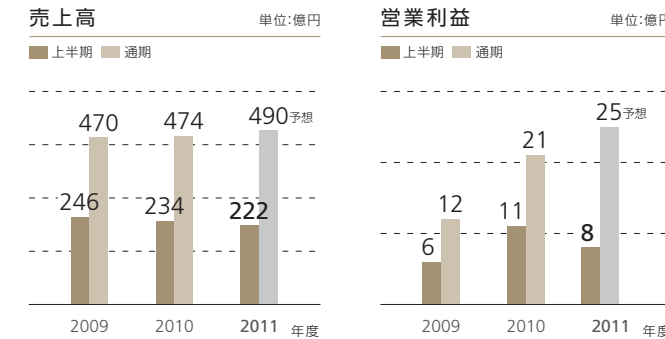
売上高は775億円で、前年同期比56億円(6.7%)の減収となり、営業利益は70億円で、前年同期比37億円(34.3%)の減益となりました。

電子部品系事業において、スマートフォン向けミクスドシングルLSIなどの販売が好調に推移したものの、販売価格の下落や円高の影響を受けました。また、電子材料系事業においては、リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」の販売量が増加したものの、販売価格の下落や原燃料価格高騰の影響を受けました。以上により、セグメント全体では減収・減益となりました。



売上高は222億円で、前年同期比12億円(5.0%)の減収となり、営業利益は8億円で、前年同期比4億円(32.5%)の減益となりました。

構造資材事業が堅調に推移したものの、東日本大震災の影響により、茨城県のフェノールフォーム断熱材「ネオマ™フォーム」と軽量気泡コンクリート(ALC)「ヘーベル™」の工場が一時操業停止となったことや、各事業で建築工事の中断・遅延の影響を受けたことなどから、セグメント全体では減収・減益となりました。



<その他>売上高構成比1.0%
 売上高は85億円で、前年同期比11億円(14.7%)の増収となり、営業利益は12億円で、前年同期比4億円(52.6%)の増益となりました。

*「その他」の区分は、従来の「サービス・エンジニアリング等」セグメントであり、プラントエンジニアリング、環境エンジニアリング、各種リサーチ・情報提供事業および人材派遣・紹介事業等を含んでいます。



CHEMICALS ケミカル (セグメント)

合成ゴムシンガポール工場、アクリロニトリル韓国工場の起工式を開催

旭化成ケミカルズでは、グローバルリーディング事業と位置づけている溶液重合合法スチレンブタジエンゴム (S-SBR) とアクリロニトリル (AN) の積極的な能力増強を進めています。本年6月、今後世界的な需要が見込まれるエコタイヤ向けの原料であるS-SBRの海外工場新設に伴い、シンガポールのジュロン島で起工式を開催しました。2013年6月に5万トン/年の設備が稼働する予定です。さらに2015年に5万トン/

年の設備増強も計画中です。同じく本年6月、ABS樹脂やアクリル繊維の原料となるANの韓国の拠点である東西石油化学が第4プラントの起工式を開催しました。同プラントは24万5千トン/年の大型設備で、2013年1月に商業運転を開始する予定です。新しいプラントが完成すると、東西石油化学での生産能力は56万トン/年となり、単一AN製造拠点として世界最大となります。



S-SBRシンガポール(上)、AN韓国 起工式

HOMES 住宅 (セグメント)

「ヘーベルハウス™ そらのま+ (プラス)」を新発売

旭化成ホームズは、本年4月より、都市の比較的小規模な敷地向けに、伝統的な縦格子をイメージしたルーバースクリーンと外壁のALC「ヘーベル™」とのコンビネーションが印象的な2階建戸建住宅「ヘーベルハウス™ そらのま+ (プラス)」を発売しました。良好な日照・採光が望み

にくい比較的小規模な敷地に建設される2階建住宅に、2階リビングとそれに連続する建物の一角に「そらのま」と名付けた、プライバシーを確保しながら光や風など自然の恵みを取り入れ、心地よい暮らしを可能とする半屋外空間の設置を提案しています。



「ヘーベルハウス™ そらのま+ (プラス)」

HEALTH CARE 医薬・医療 (セグメント)

骨粗鬆症治療薬「テリボン™」国内製造販売承認を取得

旭化成ファーマは、本年9月、「テリボン皮下注用56.5μg」(一般名: テリパラチド酢酸塩、開発コード: MN-10-T) の国内製造販売承認を取得しました。

「テリボン™」は、当社が創製した骨形成促進作用を有するヒト副甲状腺ホルモン (ヒトPTH)

製剤で、効能・効果は「骨折の危険性の高い骨粗鬆症」です。先行する製剤が1日1回投与であるのに対し、「テリボン™」は通院による週1回の投与が可能です。本剤が、高齢化の進展に伴い患者数が増加している骨粗鬆症の治療に大きく貢献できるものと期待しています。



「テリボン™」

FIBERS 繊維 (セグメント)

再生セルロース繊維「ベンベルグ™」機能性の拡大

旭化成せんいは、コットンリンターを原料とする再生セルロース繊維「ベンベルグ™」を幅広い用途で展開しています。

「ベンベルグ™」は、糸そのものに吸放湿性が備わるため、春夏は冷感、秋冬は吸湿発熱の機能性で注目を集めています。2012~13年秋冬向けには、インナー、寝装、レッグ、スポーツ分野

などで、糸本来の吸放湿性に加え、消臭性などの機能を付与した新素材を提案し、拡販を図っています。また、「ベンベルグ™」と同じコットンリンターを原料とする不織布「ベンリーゼ™」も、美容マスク用などを中心に拡販を進めています。今後もさらに快適性を向上させる機能を付与し、用途拡大を図ります。



コットンリンター(上)、「ベンベルグ™」

ELECTRONICS エレクトロニクス (セグメント)

リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」能力増強

旭化成イーマテリアルズは、世界No.1シェアを持つリチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」をグローバルリーディング事業と位置づけ、積極的な能力増強を進めています。宮崎県・日向工場では、当上半期に、2,000万㎡/年および1,500万㎡/年の設備の商業運転を開始し、滋賀県・守山工場と合わせて生産能力は2億

500万㎡/年となりました。さらに2013年春には、1系列あたり世界最大の5,000万㎡/年能力の設備が完成する予定です。本年9月には、韓国でスリット工場の稼働も開始しました。携帯電話やノートPCなどに加え、電気自動車やハイブリッド車用途など急拡大する市場でトップポジションの維持を目指します。



「ハイポア™」

CONSTRUCTION MATERIALS 建材 (セグメント)

大阪ショールーム「建材 gallery 大阪」オープン

■場 所: 「建材 gallery 大阪」〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号 (中之島ダイビル 9F) 0120-297-655
■営業時間: 毎週 月・火・木・金 10:30~12:00、13:00~17:00 (土曜日は予約のお客様のみとなります。)

旭化成建材は、2006年の「建材 gallery 東京」開設に続き、本年8月に「建材 gallery 大阪」をオープンしました。建材gallery大阪では、ALC(「ヘーベル™」・「ヘーベルライト™」・「ヘーベル™/パワーボード」)をはじめ、「ベースパック™」などの構造部材、木造床遮音材、内装材など数多くの製品を展示しており、ALCや構造部材の優れた性能を

体感していただけます。事前に立面図・平面図をお送りいただけますと、来館当日、当社独自のシミュレーションシステムにより、「ヘーベル™ パワーボード」などを使用したお住まいの外観イメージをお好みにあわせCGで自由にシミュレーションすることも可能です。どなたでもご来館いただけますので、ぜひ一度お試しください。



建材gallery大阪



POINT

当上半期末の総資産は、たな卸資産が351億円増加したものの、現金及び預金が388億円、受取手形及び売掛金が160億円減少したことなどから、前連結会計年度末(以下「前年度末」)に比べて226億円減少し、1兆4,033億円となりました。

有利子負債は、借入金を返済したことなどにより、前年度末に比べて595億円減少し、1,945億円となりました。

純資産は、配当金の支払84億円があったものの、四半期純利益を382億円計上したことなどから、前年度末に比べて318億円増加し、7,074億円となりました。この結果、自己資本比率は49.6%となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、たな卸資産の増加338億円、法人税等の支払額273億円などによる支出があったものの、税金等調整前四半期純利益591億円、減価償却費378億円、売上債権の減少145億円などの収入があったことから、631億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出307億円、定期預金の預入による支出102億円などがあったことから、386億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の減少328億円、長期借入金の返済による支出193億円、配当金の支払額84億円などがあったことから、700億円の支出となりました。

これらに加え、現金及び現金同等物が、為替換算により3億円、連結の範囲の変更により15億円、関係会社の報告期間変更により5億円それぞれ増加しました。以上の結果、現金及び現金同等物の当上半期末残高は、前年度末より431億円減少し、913億円となりました。

連結貸借対照表 (要旨)

単位:億円

科目	当上半期 2011年9月30日現在	前 期 2011年3月31日現在	前上半期 2010年9月30日現在
資産の部			
流動資産	7,372	7,557	7,143
固定資産	6,661	6,702	6,834
有形固定資産	4,187	4,184	4,350
無形固定資産	301	311	321
投資その他の資産	2,173	2,208	2,163
資産合計	14,033	14,259	13,976
負債の部			
流動負債	4,432	4,899	4,706
固定負債	2,526	2,604	2,740
負債合計	6,959	7,503	7,446
純資産の部			
株主資本	6,892	6,594	6,346
資本金	1,034	1,034	1,034
資本剰余金	794	794	794
利益剰余金	5,087	4,787	4,539
自己株式	△ 24	△ 21	△ 20
その他の包括利益累計額	62	42	62
少数株主持分	120	120	122
純資産合計	7,074	6,756	6,530
負債純資産合計	14,033	14,259	13,976

連結損益計算書 (要旨)

単位:億円

科目	当上半期 2011年4月1日～ 2011年9月30日	前上半期 2010年4月1日～ 2010年9月30日	前 期 2010年4月1日～ 2011年3月31日
売上高	8,022	7,648	15,984
売上原価	5,959	5,633	11,936
売上総利益	2,063	2,015	4,047
販売費及び一般管理費	1,425	1,380	2,818
営業利益	638	635	1,229
営業外収益	48	45	99
営業外費用	64	85	146
経常利益	621	596	1,182
特別利益	4	0	17
特別損失	35	132	216
税金等調整前純利益	591	464	983
法人税等	200	169	367
少数株主損益調整前純利益	391	295	617
少数株主損益	損 8	損 10	損 14
純利益	382	285	603

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

単位:億円

科目	当上半期 2011年4月1日～ 2011年9月30日	前上半期 2010年4月1日～ 2010年9月30日	前 期 2010年4月1日～ 2011年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	631	493	1,481
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 386	△ 374	△ 788
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 700	△ 119	△ 261
現金及び現金同等物に 係る換算差額	3	△ 21	△ 27
現金及び現金同等物の 増減額 (減少:△)	△ 451	△ 21	404
現金及び現金同等物の 期首残高	1,344	931	931
連結範囲の変更に伴う 増減額	15	9	9
関係会社の報告期間 変更に伴う増減額	5	—	—
現金及び現金同等物の 上半期末(期末)残高	913	919	1,344



会社概要

商号	旭化成株式会社 (Asahi Kasei Corporation)
設立年月日	1931年5月21日
資本金	103,388,521,767円
主要事業	繊維、化学、住宅、建材、エレクトロニクス、 医薬・医療等の事業を行う会社の株式保有および その事業活動の管理等
東京本社	〒101-8101 東京都千代田区神田神保町一丁目 105番地 神保町三井ビルディング 電話 (03) 3296-3000
大阪本社(本店)	〒530-8205 大阪市北区中之島三丁目 3番23号 中之島ダイビル 電話 (06) 7636-3111
連結対象子会社	103社
持分法適用会社	48社
URL	http://www.asahi-kasei.co.jp/

役員

代表取締役会長	伊藤 一朗	常勤監査役	中前 憲二
代表取締役社長 社長執行役員	藤原 健嗣	常勤監査役	川崎 俊之
取締役 専務執行役員	藤原 孝二	社外監査役	手塚 一男
取締役 専務執行役員	吉田 安幸	社外監査役	青木 雄二
取締役 常務執行役員	稲田 勉	常務執行役員	山添 勝彦
取締役 常務執行役員	水野 雄氏	上席執行役員	松居 龍
取締役 常務執行役員	水永 正憲	上席執行役員	角南 俊克
社外取締役	児玉 幸治	上席執行役員	根井伸一郎
社外取締役	池田 守男	執行役員	鴻巣 誠
社外取締役	市野 紀生	執行役員	坂本 正樹
		執行役員	平居 正仁
		執行役員	浅野 敏雄
		執行役員	外村正一郎
		執行役員	和田 慶宏

株式の状況

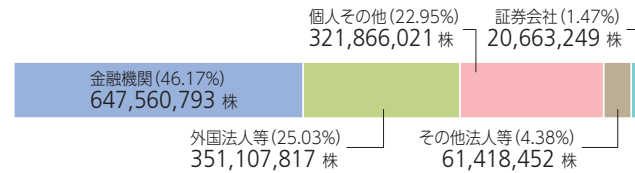
発行可能株式総数	4,000,000,000 株
発行済株式の総数	1,402,616,332 株
株主数	113,424 名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	89,486	6.40
日本生命保険相互会社	73,000	5.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	71,377	5.11
旭化成グループ従業員持株会	46,370	3.32
株式会社三井住友銀行	35,404	2.53
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	26,803	1.92
東京海上日動火災保険株式会社	24,103	1.72
株式会社みずほコーポレート銀行	20,269	1.45
住友生命保険相互会社	19,517	1.40
明治安田生命保険相互会社	18,791	1.34

(注)持株比率については、自己株式(4,866,316株)を除いて算出しています。

所有者別株式分布状況



所有株数別株式分布状況



CLOSE-UP [不動産関連事業の再編について]

旭化成ホームズ株式会社 × 旭化成不動産株式会社

AsahiKASEI
旭化成不動産レジデンス

旭化成ホームズは、さらなる不動産関連事業の拡大を目指し、本年10月、同社の開発事業を旭化成不動産株式会社へ統合し、旭化成不動産レジデンス株式会社に改称しました。この統合により、これまで旭化成ホームズと旭化成不動産に分散していた不動産関連情報の一元化が実現するとともに、開発事業および賃貸事業、不動産流通事業のそれぞれに蓄積されたノウハウ・人材が融合することで、都市部における資産(土地)活用への対応力が一層強化され、より魅力のある都市の住まいを創出する多様な事業提案が可能になりました。

Message



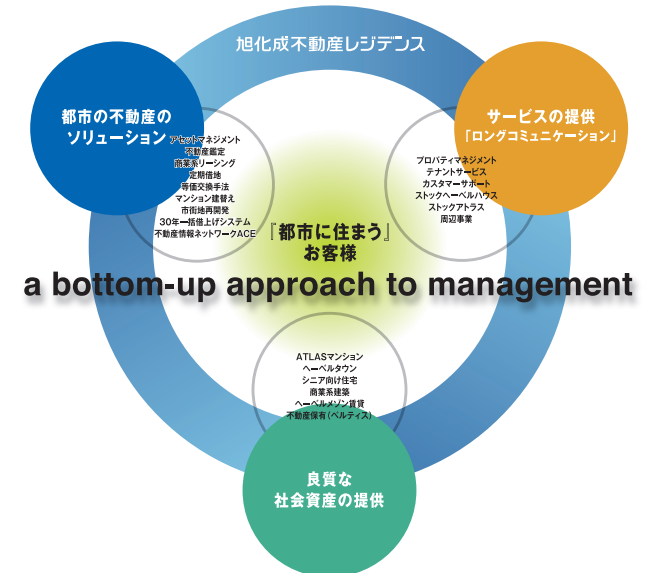
旭化成不動産レジデンス 社長
渡辺 衛男

旭化成ホームズでは、通常のデベロッパーのように土地を購入してマンションを供給するのではなく、マンション建替え、市街地再開発、密集市街地共同化(等価交換)といった権利者との合意形成を伴う事業に特化した開発事業を進めてきましたが、新会社になってもその方針は変えません。エリアもこれまでどおり都市部に限定し、賃貸や不動産流通事業との相乗効果を発揮しながら、土地ではなく人に着目した事業を展開します。

都市の住まいと資産(土地)の問題をマーケットインで解決して、お客様にベストソリューションを提供できるオンリーワンの不動産会社を目指していきます。

旭化成不動産レジデンス株式会社 概要

本社: 東京都新宿区西新宿2-3-1
資本金: 32億円 (2011年10月1日現在)
事業内容: 不動産開発事業、不動産流動事業など不動産関連全般



■ 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬開催
1単元の株式の数	1,000株
基準日	定時株主総会 毎年3月31日
	期末配当金 毎年3月31日
	中間配当金 毎年9月30日
	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人	住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	住友信託銀行株式会社証券代行部 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
公告の方法	電子公告 http://www.asahi-kasei.co.jp/asahi/jp/koukoku/index.html

■ 株式に関するお手続きについて

各お手続きのお問い合わせ先は以下のとおりとなっております。

お手続きの内容	証券会社の口座をご利用の株式についてのお問い合わせ先	特別口座※1)に記録された株式についてのお問い合わせ先
<ul style="list-style-type: none"> ● 住所、姓名などの変更 ● 配当金の受領方法のご変更 ● 単元未満株式の買取、買増請求 	お取引証券会社	特別口座の口座管理機関 〔住友信託銀行株式会社(証券代行部)〕
<ul style="list-style-type: none"> ● 特別口座から証券口座への振替請求 		
<ul style="list-style-type: none"> ● 未払配当金の支払請求※2) ● その他のお問い合わせ 	株主名簿管理人 〔住友信託銀行株式会社(証券代行部)〕	

※1) 株券電子化移行時点で株式会社証券保管振替機構に預託されなかった株式は、法令に従い、名義人名で当社が住友信託銀行株式会社に開設した特別口座に記録されました。特別口座に記録された株式のご売却には、証券会社の口座への振替手続きが必要です。

※2) 配当金は、支払開始の日から満3年を経過しますと定款の規定によりお支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。

【住友信託銀行株式会社 証券代行部】

郵便物の送付先 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10

電話照会先 ☎ 0120-176-417 (平日午前9時から午後5時)

インターネットホームページURL <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

【配当金受領方法変更をご希望の株主様へ】

お受け取りには、下記の4つの方法がございます。安全、確実にお受け取りいただくために、口座振込の利用をお奨めいたします。(詳細は上記お問い合わせ先にご確認ください。)

- 登録配当金受領口座方式
全てのご所有銘柄の配当金が、ご指定いただいた一つの金融機関口座に振込みとなります。
- 株式数比例配分方式
ご利用の各証券口座に振込みとなります。
(注. 当方式を採用している証券口座のみをご利用の株主様に限ります。)
- 個別銘柄指定方式
ご所有の銘柄ごとにご指定いただいた各金融機関口座に振込みとなります。
- 配当金領収証方式
ゆうちょ銀行・郵便局の窓口で現金をお受け取りいただけます。

【単元未満株式(1~999株)をご所有の株主様へ】

ご所有の株式の買取りの請求、または買増しの請求をしていただくことができます。なお、単元未満株式が特別口座で管理されている場合、手数料は無料です。(証券会社で管理されている場合の手数料は、お取引証券会社にお問い合わせください。)

- 買取請求
ご所有の単元未満株式を、市場価格で買取る請求をしていただく制度です。
(→ご所有の単元未満株式のご売却となります。)
- 買増請求
ご所有の単元未満株式が単元株(1,000株)になるために必要な株式数を、市場価格で買増す請求をしていただく制度です。
(→買増し後は、単元株式をご所有いただくこととなります。)

旭化成株式会社

〒530-8205 大阪市北区中之島三丁目3番23号 中之島ダイビル

<http://www.asahi-kasei.co.jp/>

